

第10回

Group goût

Gg展

2021. 6.29 (火) ~ 7.4 (日)

ふくやま美術館 ギャラリー 入場無料

開館時間 9:30 - 17:00 / 最終日 16:30まで

主催：グループ・グー (Group goût)


ひろしまインターネット美術館 広島テレビ

後援：福山市 ふくやま美術館 エフエムふくやま 尾道エフエム放送

広島ホームテレビ

協賛：ガレリア・レイノ

中国新聞備後本社 ちゅびCOM おのみち

助成：  エネルギア文化・スポーツ財団

コロナ禍の中で

コロナ禍の中、美術においてもいろいろな試みがなされた。私が特に注目したのは、ベルリンで開催された塩田千春の個展であった。入場が規制される中、ウェブサイトに3DVRが公開され、その圧倒的なインスタレーションまで再現させていた。そのVR(ヴァーチャルリアリティ)の技術に驚かされたのであった。同様の3DVRは、東京国立近代美術館のピーター・ドイグ展でも公開されていた。また別の話題で、仮想通貨のようなブロックチェーン技術(デジタル上の唯一性が担保されたNFT)による現代アート作品がニュースになった。ピープルという作家の作品がクリスティーズのオークションにおいて超高額で落札されたとの報道に唖然としたのである。大きな禍の時に、人々の利便性に供する技術と、浅ましさを助長するような技術(とまでは簡単に言えないが…)が進化を遂げていたのである。何のための技術の進化なのか、ということを考えさせられてしまった。

美術における技術・技法は、作家の独自性を保証するものとして非常に重要なものである。ピカソのパピエ・コレやエルンストのフロッタージュなどが頭に浮かぶ。全く同じ方法を真似る作家は少なく、特定の技法は、作家のオリジナリティを裏付けているという構図が成り立つのだ。

Gg展に集う作家たちも、独自の技術・技法の修得に日々立ち向かっているのだろう。それを進化させないと、自己の表現力を高めていけないのだから。ここには、師弟関係も、団体所属意識もないので、各自バラバラの方向性を維持している。その多様性が、Gg展の良さである。今年は、新たに3人の作家が加わり、総勢15人の展示となる。

谷藤史彦(前ふくやま美術館副館長)

*Gg展は、2012年に高地・渋谷・長谷川・和田の4人によって結成され、仲間を増やしつつ活動を続けるグループ・グー(Group goût)の展覧会である。

1. 足立 陽子
《JOMON》
2. 板倉 文香
《残》
3. 岡 孝博
《RAIL WORK APORIA III》
4. 高地 秀明
《月夜の光》
5. 酒井 一樹
《巨大な動物シリーズ
「グリーンイグアナ」》
6. 渋谷 清
《水脈》
7. 菅原 瑤子
《潜》
8. 瀬尾 佳枝
《水玉》
9. 田窪 薫
《私を知っている》
10. 長谷川 雅敏
《城塞の街》
11. 橋野 仁史
《Schliere》
12. 花岡 寿一
《女王と野良猫》
13. 原 夕希子
《ゆびふし》
14. 牧原 竜浩
《ある日の港》
15. 和田 道雄
《飛行機20-18》



1



2



3



4



5



6



7



8



9



10



11



12



13



14



15

「出品作家によるギャラリートーク」

- 日時/7月3日(土) 14:00~15:00
- 場所/ギャラリー内



「缶バッジを作ろう!」

- 日時/7月3日(土) 7月4日(日)
- 13:00~14:00
- 場所/ギャラリー内



※申し込み不要。
材料がなくなり
次第終了。

※感染対策を行いながら実施いたします。
新型コロナウイルスの感染状況により変更する可能性があります。

- 第10回Gg展 <入場無料>
- 会期/2021年6月29日(火)~7月4日(日)
- 開館時間/9:30~17:00 [最終日は16:30まで]
- 会場/ふくやま美術館 ギャラリー
〒720-0067 広島県福山市西町2丁目4-3
- 問い合わせ先/グループ・グー 代表 和田道雄
090-4142-9881
- アクセス/JR福山駅北口より西へ約400m

【出品作家の情報、展示案内などはこちらから】

- 展示やイベント等の変更は
こちらから確認できます。



来場者には「第10回
Gg展記念作品集」を
無料で差し上げます。

先着500名様。

